

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

ASEAN グローバルプログラム に参加して

河村 勇佑
Yusuke KAWAMURA
数理情報学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加した。ベトナムのハノイでは企業見学や現地学生との PBL を行い、シンガポールでは現地の大学や企業の見学の他にも若手ビジネスパーソンの方との交流会も行われた。見学した企業は、食品製造業や IT 企業などであり、PBL では現地の大学生とともに活動することでコミュニケーションをとる楽しさと難しさ、またその国の文化を知ることができた。その他具体的なプログラムの日程を下の表 1 に示す。

表 1 日程表

8月28日	出国, オリエンテーション	ベトナム
8月29日	栄光堂, Rikkei Soft/NTQ で企業見学	
8月30日	PBL 開始	
8月31日	PBL まとめ, 成果発表	
9月1日	博物館等見学, 自由時間	
9月2日	WASABI CREATION の Tong さんの講演	シンガポール
9月3日	南洋理工大学を見学	
9月4日	Google を見学 日本人ビジネスパーソンの方との トークセッション	
9月5日	シンガポール出国	
9月6日	日本着	

2. 参加目的

このプログラムは「海外経験を持ち、考え方やものの見方（視野）を広げる」という趣旨であり、それに加えて、私は「世界の文化や考えの違いを学

び、日本との差を知ったうえで将来、自分自身のキャリアの選択肢を広げる。」という、もう一つの目的をもって参加した。この目的を持ってプログラムに臨んだ理由は、これから待つ就職に向けて日本だけに可能性を絞っていてもいいのか、海外にすることも可能性の一つとして考慮する価値があるのではと思っていたからである。

3. 研修内容

表 1 で述べた行程のなかで、最も自分の目的が達成され、学びの多かったと感じている 9 月 4 日に行われた「シンガポールの日本人ビジネスマンとのトークセッション」について、以下で詳しく述べる。このイベントは ASEAN グローバルプログラムの全行程のなかで最後に行われ、それまでの 7 日間の研修で身に着いたことが整理できた。ここでは 4 人のビジネスパーソンの方がそれぞれ少人数の班に加わり質疑応答をするトークセッションと、全員で加藤順彦さんの講演を聞く、という 2 つのパートに分けて行われた。

3.1 4人の日本人ビジネスパーソンの方とのトークセッション

ここではまず、ビジネスマンの方がそれぞれ 8 人の学生からなるグループ対して 1 名ずつ輪に加わり、グループを入れ替わりながら学生の質問に答えてくださった。それぞれ経歴や考えの違う 4 人のビジネスマンの方に質問しお話を伺うことで様々な角度から、海外で働くということについて学ぶことができた。海外で働く良さや、辛い点、さらに日本と比べた働き方の違いなども教えていただいた。特に自分が感じた日本と海外の環境の違いは、ライフワークバランスの観点で私生活を大切にしている、という点だ。将来の道を日本の中だけに絞ってしまうことがいかにもったいないことがわかった。そしてビジネスマンの方との交流の中で特に印象に残った言葉が「自分の何を大切にするのかを軸に自分の身を置く環境を決めてください。」というもの

であった。就職活動が迫ってきたこの時期にこういった基準の在り方を知ることができたのはとても幸運だと感じた。この言葉を聞いて私がまず感じたことは「何事も、まず経験し知ることがなければ始まらない」ということだ。自分の理想とするキャリアを実現できる環境がどこにあるのか、それを知ることがとても大切だと感じた。

3.2 加藤順彦さんの講演

4人の日本人ビジネスパーソンとのトークセッションの後、「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の著者である加藤順彦さんの講演を聞いた。加藤さんの大学時代から今までの経験談などから、今の私たちに必要な意識や考えを教えていただいた。講演の内容は、加藤さんのこれまでの人生の中で起こった出来事や、今の世界の経済の状況から、今の自分たちがすべき、知っておくべきことを学べるものであった。大学生の時に自分で人を集め事業を始めたというエピソードを聞いて自分との行動力の差を感じたとともに、自分もこの行動力を得たい、と強く感じた。日本という国が、島国という性質上、歴史的にも外側からの影響をよく受けると気づき、自分も海外に出て海外から日本を揺さぶろうとした発想に驚いた。この講演でもっとも心に残った言葉は「人間は人間から影響を受ける。自分の環境は自分で作る、そのために自分の周りの人間は選んでください。」というものだ。これからの大学生活、一生

の付き合いとなる友人も多い。その中で自分に良い影響を与えてくれる友人もまた多くいると感じた。

4. おわりに

今回のプログラムを通して、私が掲げた研修の目的であった「世界の文化や考えの違いを学び、日本との差を知ったうえで、将来の自分自身のキャリアの選択肢を広げる。」という目標は十分に達成された。プログラム参加前の狭かった視野も、一部ではあるが海外を知ることで広がったと感じた。そして、これからも海外経験を積みさらに視野を広げたい、というモチベーションにもつながった。また同時に、このプログラムで見つかった選択肢を閉ざさないためにも、今学んでいる自分の専門である数学や物理、プログラミング技術も大切にしようと感じた。「自分が学んだことがどこで生きるか分からない。学ばなかったことを後悔するよりも、学んだことを喜べるほうがいいと思います。」という日本人ビジネスマンの方の言葉を大切にしたいと思った。また、自分に足りないものを実感することになったプログラムでもあった。プログラム全体を通して語学力の不足を感じた。また将来への見通しの甘さも痛感した。しかしその足りないと感じたものをこれから得ようと思えるモチベーションが生まれていることもまたこのプログラムで実感できた。語学だけでなく自分の視野を広げ、考えを成長させてくれたとても内容の濃いプログラムであった。